

もり 森林を生かすしくみ

“森林環境譲与税”を活用した森林の整備

森林にはさまざまな機能があり、二酸化炭素を吸収して地球温暖化の防止に役立つだけでなく、国土の保全や水源の涵養（地表の水が地下に染み込み蓄えられること）などにより、私たちに広く恩恵を与えています。

適切な森林の整備等を進めていくことは、我が国の国土や国民の生命を守ることにつながるため、森林を生かすしくみとして、「森林環境譲与税」が創設され、森林整備に役立てられています。



私たちの暮らしを支える森林

日本の国土の約7割が森林ですが、安来市もまた、総面積の7割が森林に覆われた自然豊かなまちです。

普段の生活の中で意識するとは少ないですが、森林は木材の生産のためだけでなく、土砂災害の防災や環境保全、二酸化炭素の吸収などのさまざまな機能を発揮して、私たちの暮らしを支えています。

これを「森林の多面的機能」と呼びますが、この中でも日々の暮らしに直結する重要な機能の一つが、きれいな水を供給してくれ

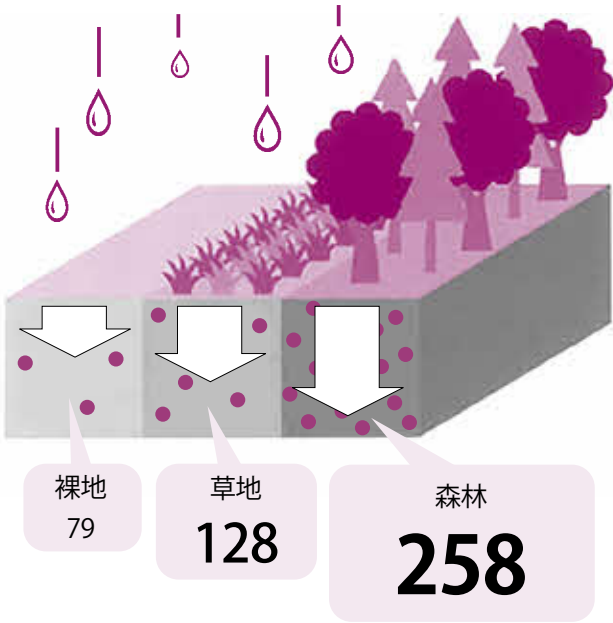
る「水源涵養機能」です。

森林がある場合とそうでない場合では、土壌が水を吸収できる能力（浸透能）が大きく異なります。森林はそれだけでなくの水を蓄え、ゆっくりと水を浄化して、豊かな水を私たちに供給してくれるのです。

森林を生かすしくみ

こうした豊かな森林が持つ多くの機能を生かすには、森林をしつかりと整備していくことが必要です。しかし、林業の採算性の低下や、所有者が不明な森林の顕在化、担い手の不足などにより、全国的に手入れ不足の森林が

森林の水源涵養機能 土壌ごとの浸透能（mm/1時間）の比較



参考：村井宏・岩崎勇作
「林地の水及び土壌保全機能に関する研究」（1975）

「やすぎどじょっこテレビ」で 特別番組を放送します

今回の特集で紹介しきれなかった森林の役割や、安来市で行われている、森林を守り生かしていく取り組みについて詳しく紹介する特別番組を「やすぎどじょっこテレビ」で放送します。

皆さん、ぜひご視聴ください。



安来市林政広報番組

「森林を守ろう。森を活かそう。」

令和6年2月上旬から放送開始予定

（放送時間30分、再放送あり）

増えています。

このような状況の中、令和元年に市町村による森林整備等の新たな財源として「森林環境譲与税」の譲与がスタートしました。

森林環境譲与税の

目的と使い方

森林環境譲与税は、森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律に基づき、市町村では「森林の整備に関する施策」と人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の「森林の整備の促進に関する施策」に充てることとさ

れています。

安来市は、令和5年度には3500万円余りの森林環境譲与税が配分されており、主に、林業事業者が行う市内の森林整備や木材生産の促進、林業のデジタル化（林業DX）の推進などに充てています（左ページ参照）。

安来市では、森林の多面的機能が今後も適切に発揮されるように、森林環境譲与税を活用してさまざまな取り組みを進めていきます。

問い合わせ 農林振興課

TEL 23・3335



森林環境譲与税を活用した主な事業



森林環境整備総合対策事業

森林の多面的機能の発揮と、林業の成長産業化に向け、森林環境整備を進める総合的な対策として、林業事業者に対するさまざまな補助メニューを展開しています。

補助の対象は、高性能林業機械の導入や伐採のための路網整備（作業道の新規開設、既存路網の修繕）、伐採作業用の土場整備、再造林と植林地の保育、林業事業者の従業員の技能向上の支援など、林業全般に対して幅広く対応し、森林整備を後押ししています。

【令和5年度予算：2,040万円】



市産木材利用促進補助金

市内の山林から伐り出される木材（市産木材）の利用促進を図るため、市産木材を使用した木造住宅等の新築、増改築、修繕、リフォームを行う施主に対して、住宅等への市産木材の使用量に応じて補助を行っています。

補助額は、住宅等に使用する市産木材1㎡あたり3万円で、住宅等1軒あたり30万円が限度です。令和3年度の制度開始からこれまで、新築15軒、増改築1軒、リフォーム5軒、計21軒の補助を行っています。

【令和5年度予算：300万円】



画像提供：ヤマハ発動機株式会社

森林UAVレーザー計測

（UAV…無人航空機）

令和5年度の事業として、島根県が令和3年度に設定した「循環型林業拠点団地」122haを対象に、森林の地形や立木の状態を詳細にデジタル情報化して活用することで、林業のデジタル・トランスフォーメーション（林業DX）の推進を図っています。

また、この事業のほかに、令和5年度には市内全域の森林の航空レーザー計測と解析を進めており、この森林UAVレーザー計測の成果を精度向上に役立てています。

【令和5年度予算：740万円】



森林整備に向けた産学官連携

島根大学生物資源科学部、しまね東部森林組合、安来市との産学官連携により、大学の知見を生かして、大学教員の助言や指導のもと、持続可能な森林経営を実現するための次世代の森づくりの手法や、林業DXの検討を進めています。

しまね東部森林組合では、島根大学教員の現地指導のもとで、生物多様性に富み、災害に強い「針広混交林」（スギやヒノキなどの針葉樹と広葉樹が混ざった森林）の育成に取り組んでいます。

【令和5年度予算：400万円】